

一切が自由となりて滝落つる

山田真砂年

「俳壇」十月号（八月や）より

器に従つて自在にかたちを変え、低い所へ流れる水の性質は古くから人の生き方に結びつけられ、「水隋方円」「上善如水」などの格言も生み出してきた。天然の水は河川や池沼などの地形に従い、自らのかたちを持つことが出来ない。掲句はそのような水の本質を、絶え間なく落ちる雄渾な滝に託して描いた。滝は落ちる瞬間何ものにも触れることなく、まさに「一切が自由」な状態となる。滝は、あらゆる形あるものから解き放たれた本来の水の姿なのかもしれない。